

2020. 7. 12 第二主日礼拝

I コリント 3:1-9 「大切なのは人ではなく神」

### 聖書

1 兄弟たち。私はあなたがたに、御霊に属する人に対するようには語りことができずに、肉に属する人、キリストにある幼子に対するように語りました。

2 私はあなたがたには乳を飲ませ、固い食物を与えませんでした。あなたがたには、まだ無理だったからです。実は、今でもまだ無理なのです。

3 あなたがたは、まだ肉の人だからです。あなたがたの間にはねたみや争いがあるのですから、あなたがたは肉の人であり、ただの人として歩んでいることにならないでしょうか。

4 ある人は「私はパウロにつく」と言い、別の人は「私はアポロに」と言っているのであれば、あなたがたは、ただの人ではありませんか。

5 アポロとは何なのでしょう。パウロとは何なのでしょう。あなたがたが信じるために用いられた奉仕者であって、主がそれぞれに与えられたとおりのことをしたのです。

6 私が植えて、アポロが水を注ぎました。しかし、成長させたのは神です。

7 ですから、大切なのは、植える者でも水を注ぐ者でもなく、成長させてくださる神です。

8 植える者と水を注ぐ者は一つとなって働き、それぞれ自分の労苦に応じて自分の報酬を受けるのです。

9 私たちは神のために働く同労者であり、あなたがたは神の畑、神の建物です。

### はじめに

コリント教会の最初の問題は、教会内に分裂・分派があったことで、これを是正する必要がありました。パウロは3章で再びこの問題に触れ、なぜそのような問題が生じたのか原因を明らかにし、解決のための大切なポイントを示しました。

実際には「パウロ派」「アポロ派」「ケファ派」「キリスト派」という4派に分かれていたのですが、キリスト派は別として、あとの3派は特定の人を信奉するグループと言えます。人を中心にしたグループで、これは世の中の的に言えばそのようなグループが存在することは許容されるでしょうが、いざ教会となった場合は問題となるのです。そこには世の中の組織と教会という組織が仮に外面的な機構は同じようであったとしても、全く違う意味を持っていることを示すものでもあるのです。

## 1. 分裂・分派の原因

どうして教会内に分裂・分派ができてしまったのでしょうか。その原因は妬みや争いにあると指摘します。「あなたがたは、まだ肉の人だからです。あなたがたの間にはねたみや争いがあるのですから、あなたがたは肉の人であり、ただの人として歩んでいることにならないでしょうか。」(3節)。この妬みは厄介なものです。ある人は、妬みがあるから人は向上するのだと言うかもしれません。あの人より上に行こうとか、見返してやろうという思いが、結果的に人を向上させることはあると思いますが、妬みという動機そのものが神さまには受け入れられない罪なので、その上に作り上げられた成果も神さまには喜ばれるものとはならないと言えます。動機の部分は人には見えませんが神さまはご存知ですから、信仰者にとっては「神さまの目には」という点が大切なポイントになるのです。これは物事を評価するとき当てる物差しが「人の目」なのか「神さまの目」なのかの違いと言ってよいでしょう。

ここでパウロは、妬みや争いを持つ人のことを「肉の人」(3節)または「肉に属する人」(1節)と呼びました。そのような人には固い食物を与えることができず、いつまでも乳しか与えられないと言い、コリントの信仰者はいつまで経っても乳しか与えることができない人なのだと言われ、皮肉交じりに叱責しています。これに対して固い食物を与えることができる人を「御霊に属する人」

と呼び、信仰者の中には「肉に属する人」と「御霊に属する人」の2種類が存在すると言います。これはどういうことでしょうか。クリスチャンはイエスさまを信じた時に聖霊を頂いています。それなのに、「御霊に属する人」ではなく「肉に属する人」がいるとはどういう意味でしょうか。御霊に属する人とは、御霊の声を聞き、御霊の感化の中に生きている人のことで、肉に属する人は、聖霊は頂いていても聖霊との関係が希薄な人で、神さまを知らなかった時の価値観や生き方に支配されている人です。神さまのことは知ったけれども、神さまが願うような歩みには至らず、中途半端な歩みの中にいるのです。神さまについての知識は持っていますが、神さまと一緒に歩んでいないのです。それが妬みや争いの原因となっているわけです。コリントの手紙では、分裂・分派の原因の指摘で終わっていますが、聖書は肉の人から御霊の人へと変貌する道を「きよめ」ということばで提示しています。自分のクリスチャン生涯を中途半端な歩みに感じている人は、きよめの恵みを祈り求めましょう。

## 2. 植え、水を注ぐ者

妬みや争いはそこに人間が深く関わっているゆえに起こる問題です。しかし、人が関わること自体が問題なのではありません。コリント伝道に直接的に関わったパウロとアポロの二人の名前を持ち出し、「アポロとは何なのでしょう。パウロとは何なのでしょう。あなたがたが信じるために用いられた奉仕者であって、主がそれぞれに与えられたとおりのことをしたのです。私が植えて、アポロが水を注ぎました。」(5, 6節)と、人の関与を正当に認めながらも、それは主によって委ねられた務めの違いであって、どちらが偉いとか、どちらが有能なのかという問題ではないと明言しています。

「私が植えて、アポロが水を注ぎました。」とある通り、パウロがコリントの地にイエスさまのことを伝え、その後アポロが教会を建て上げました。その事実なくして教会は存在しないのです。聖書は人の功績を意味がないものだとは言っていません。福音の前進のために人が関与した事実は正当に評価

されてしかるべきです。今インマヌエル豊田キリスト教会は45年目の活動をしています。開拓期から今日まで牧師も信徒もそれぞれが深く関わって来たことを覚えます。ある日突然教会が誕生し、いつの間にか人が増えていくというようなことはなく、多くの人の祈りと犠牲的な奉仕があって、一つ一つ積み上げられてきたのです。その事実を教会の歴史の中に正しく見なければいけないと思います。私はこの教会の5代目の牧師となりますが、今日まで過去4代の牧師（計8名の牧師）と多くの信徒方がこの教会を建て上げてくださいました。その内3名の牧師が天に召され、開拓期から奉仕してくださった信徒方も天に召されて行きました。今いる私たちも含め、先に天国に帰られた方々によって教会の基礎が築かれ、建て上げられてきたのです。その背後には、人の目には隠された真実な奉仕があり、労も財も惜しみなく献げてくださった方々の信仰の証があるのです。その事実を今ここに生かされている私たちと次世代の方々はしっかりと受け止めて、次の時代を展望しなければいけないと感じています。

### 3. 成長させてくださる神さま

人の関与を認めたと、さらに大切な視点が「しかし、成長させたのは神です。」(6節)の一語にあります。この視点が欠落していたことが、教会内に分裂・分派をもたらした原因であり、パウロはそれをもって「肉に属する人」と言ったのです。

「ですから、大切なのは、植える者でも水を注ぐ者でもなく、成長させてくださる神です。」(7節)。信仰者一人一人の今日までの歩みを振り返り、成長させてくださった神さまに感謝をささげましょう。その前に、私たちが陥りやすい罠について考えたいと思います。それは私も含めてしばしば思うことなのですが、「私は何年たっても全然成長していない」という感覚です。確かに私たちはイエスさまを信じて救われてからも多くの失敗や過ちを犯しては悔い改めて来ました。「あ～、またやってしまった」と言ったことを繰り返しているかもしれません。それをもって、私は全然成長してないという言い

分は分からないわけではありません。しかし、その言い分は自分の現状しか見ていなくて、しかもかなり偏った見方しかしていないと思うのです。先にお話したように、私たちが今あるのは、植え、水を注いでくださった方々がいて、そうした方々をイエスさまは私たちの側に置いて、私たちを導き育ててくださったわけです。それらの労苦をまるで意味がないかのように言うてしまうことは、大変失礼なことではないかと思えます。もし、「私は先生の下で信仰生活を送ってきました。しかし、先生の牧会は私にとって何の役にも立ちませんでした」なんて言われたら、私はとても悲しいです。植えて、注いで、育ててくださった方の前に、「私は何年経っても全然成長していません」ということばはどうなのでしょう。いや、本当に何も成長していないのでしょうか。もしそうだとしたら、信仰を持つことの意味はどこにあるのでしょうか。間違いなく、イエスさまによって一人一人は変えられ、成長させられているのです。

私たちは、成長させてくださる神さまへの期待が持てなくなったら、何に望みを置いたらよいのでしょうか。人ですか、お金ですか、環境ですか。私たちの内面がイエスさまのように造り変えられていくために、神さまに期待しようではありませんか。私は牧師としてこの点において大きなミスを犯してしまったことをこの礼拝を通して神さまと皆さまにお詫びしなければいけないと感じています。それは今から約7年前、前任の主任牧師が癌で倒れ、天に召された後のことです。当時副牧師として仕えていた私は、教会にとって大きな危機を何とか乗り越えなければいけないと思い、成長させてくださる神さまをそっちのけにして、自分で何とかしなければと肩に力が入っていました。その態度は信徒の皆さまにもプレッシャーをかけ、時には改革の名の下に、皆さまの真実な奉仕を否定するような発言をして来たことを思います。ほんとうに神さまにも皆さまにも申し訳ないことです。今日、この礼拝の中で改めて、成長させてくださるのは神さまなのだということを魂に刻み込むように聖霊の促しを感じています。コリント教会はパウロによって「肉に属する人」だと叱責を受けています。神さまはその教会を「御霊に属する

人」に変えてくださるのです。何と感謝なことでしょう。私たちも成長させてくださる神さまに期待して歩んで行きましょう。

### まとめ

教会も信仰者一人一人も、成長させてくださる神さまに期待し、御霊に聞き従って歩みましょう。「私たちは神のために働く同労者であり、あなたがたは神の畑、神の建物です。」(9 節)とあるように、神さまの畑を耕し、神さまの建物を建て上げる同労者として仕えて行きたいと願います。成長させてくださるのは神さまです。この一点を忘れず、主の恵みに依り頼んで歩めますように御霊の助けをお祈りします。